

地球環境セミナー「アジアの廃棄物問題と国際環境協力」

Solid Waste Management and Environmental Cooperation in Asia

主催	地球規模課題対応国際科学技術協力事業（JICA/JST/SATREPS）「スリランカ国廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」
共催	早稲田大学アジア太平洋研究センター（WIAPS）、早稲田大学グローバル COE プログラム「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点（GIARI）」、早稲田大学グローバルサステイナビリティ研究所
テーマ	アジアの廃棄物問題と国際環境協力
日時	2011年10月12日（水）15:00-17:30
場所	早稲田大学（早稲田キャンパス）19号館713会議室
言語	英語
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・報告：松岡俊二(早稲田大学)、川本健(埼玉大学)、飯島聡(埼玉大学)、高橋昭男(JST)、Gemunu Herath(Peradeniya University) ・コメント：江島慎也(JICA)、松本礼史(日本大学)、駒井武(AIST)、Mushtaq Memon(UNEP/IET) ・その他：小出隆広(埼玉大学)、C.S. Kalpage(Peradeniya University)、A.M.N. A lagiyawanna(Ruhuna University)、L. Mangalika(National Solid Waste Management Support Center)、大学院生など、計20名

1. プログラム

15:00-15:20	基調報告：松岡俊二（早稲田大学アジア太平洋研究科・教授）
15:20-15:30	SATREPS 紹介：高橋昭男（JST）
15:30-16:00	第1報告：川本健（埼玉大学准教授）、飯島聡（埼玉大学教授）
16:00-16:30	第2報告：Prof. Gemunu Herath (Univ. of Peradeniya)
16:30-17:00	コメント：松本礼史（日本大学准教授）、江島慎也（JICA 地球環境部長）、駒井武（産総研・副部門長）、Mushtaq Memon (UNEP/IET)、
17:00-17:30	総合討論

2. セミナーの趣旨

アジア途上国では、急速な経済成長に伴い廃棄物問題が深刻化している。とりわけ最終処分場の状況は、覆土や排水処理等の適切な管理・運営が全くなされていないオープンダンプ状態であり、水汚染やスカベンジャーや周辺住民の健康への悪影響が懸念されている。埼玉大学や早稲田大学などが協力している「スリランカ国廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」の地球規模課題対応国際科学技術協力事業（JICA/JST/SATREPS）により、スリランカ国ペラデニア大学、ルフナ大学、国家廃棄物管理支援センターなどの研究者・専門家を日本へ招聘できた。このような機会に、早稲田大学・グローバル COE プログラム「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点（GIARI）」の「アジアの環境ガバナンス研究グループ（AEG）」は、アジアの廃棄物問題に係る内外の研究者・専門家も含め、幅広くアジア途上国の廃棄物問題の現状、各国の対応策とその評価、今後の国際環境協力のあり方などの議論を行った。

3. 報告概要

- ・ 基調報告：松岡俊二（早稲田大学アジア太平洋研究科・教授）

スリランカ廃棄物最終処分場を対象とした SATREPS プロジェクトの進行状況を説明し、途上国の廃棄物問題に関連する状況をスリランカ中心に概観した。スリランカの法・制度、組織、財政、廃棄物処理などの現状を、他の途上国と比較しながら問題点を抽出した。最終的には、廃棄物管理と持続性の問題、効果的な国際環境協力、キャパシティ・ディベロップメント、日本（JICA）の廃棄物分野の国際協力といった議論のポイントを指摘した。

- ・ SATREPS 紹介：高橋昭男（JST）

地球規模課題対応国際科学技術協力事業（JICA/JST/SATREPS）の目的、体制、事業展開の状況、効果などを具体的に紹介した。さらに、スリランカ SATREPS プロジェクトに対する科学技術振興機構（JST）側からの評価やアウトプットへの期待などを紹介した。

- ・ 第1報告：川本健（埼玉大学准教授）、飯島聰（埼玉大学教授）

スリランカ SATREPS プロジェクトと関係して、日本の廃棄物管理の歴史と法制度・実施体制や廃棄物処分場法制度・基準など日本の経験を中心に分析。このような日本の経験に基づいてスリランカ廃棄物処分場の制度と実情を比較分析した。

- ・ 第2報告：Prof. Gemunu Herath (Univ. of Peradeniya)

スリランカの人口・地理・気象・行政区分など廃棄物問題と関連する基礎情報を説明した。スリランカの法・制度の歴史的な展開を概観し、廃棄物管理組織・システム、各国ドナーの廃棄物分野の支援状況などを紹介した。

- ・ コメント

1) 松本礼史（日本大学准教授）：OECD データを用いて3パターンの環境クズネッツ曲線におけるスリランカの位置づけや今後の予測についてコメントした。

2) 江島慎也（JICA 地球環境部長）：日本の自治体のごみ処理（ごみ分別）の例を挙げながら、スリランカにおけるごみ処理のコストや住民の意識などについてコメントした。

3) 駒井武（産総研・副部門長）：適地選定、データベースなどをスリランカでどのように構築するかといった廃棄物管理における技術的問題を指摘した。

4) Mushtaq Memon (UNEP/IET)：廃棄物問題には、処理、廃棄物関連インフラ、温室効果ガスの排出、リサイクル・リユースなど資源管理など多様な問題が関係しており、統合的なアプローチが必要であることを指摘した。

- ・ 総合討論

廃棄物問題に関する政治的イシュー、廃棄物ビジネス、産業廃棄物処理、利害関係者の参加、住民の支持・自覚 (public support/ awareness)、住民の教育、他途上国の good/bad practice、効果的な協力などについて討論した。

以上